



◇特集 中学高校生世代向け
サービスを考える

◇Topics 講演会「菌類から
見える自然環境」

■ 特集 ■ 中学高校生世代向け サービスを考える

10代の利用者に 公共図書館ができること すべきこと

みなさんの身近な公共図書館では中学生や高校生世代の若者をよくみかけますか？ 小学生の頃は図書館に通っていた子どもも学年が進むにつれ、クラブや塾で忙しくなったり、新たにいろいろな事に関心が向いて図書館に縁遠くなる事が多いようです。夏休みの研究で久しぶりに訪れても、基本的な資料の調べ方がわからず、司書さんに尋ねることもせず、そのまま足が遠のく子。児童コーナーは子どもじみているし、一般書の書架はとっつきにくいという子。一方、本が好きで近くの図書館の児童コーナーの本はすべて読破した、という中学生の話も耳にします。

今回の特集では中高生世代の若者向けのサービスについて考えます。その手がかりとしてヤングアダルトサービスについて図書館情報学の専門家である岩崎れいさんがその目的と現状、課題を紹介。さらに高校生が学校図書館で本に向き合う様子から「本に興味がないわけではない」と感じる司書の城野裕紀子さんの報告、そして京都や大阪の図書館での若者を取り込もうという取り組みを取材、報告します。中高生世代にすすめる本の紹介では今を生きる若い人への思いとともに本が集まりました。

公共図書館のヤングアダルトサービスは これからどこへ向かうのか？

公共図書館サービスは、乳幼児期から一生にわたる人の知的活動をサポートする仕事である。近年は、乳幼児サービスや高齢者サービスなどが注目され、従来の児童サービス・成人サービスという大きなくくりだけにとどまらない、きめ細やかなサービスが求められるようになってきた。その日本の公共図書館のサービスの中で、もっとも手薄になっているのは、ヤングアダルトサービスではないだろうか。

1. ヤングアダルトサービスの目的

ヤングアダルトサービスは、主に中高生を中心とする10代の子どもたちへのサービスであり、国際図書館連盟（以下IFLA）のガイドライン¹は、ヤングアダルトサービスについて、以下の3つの目的を挙げている。(1)ヤングアダルト期独特のニーズにもとづいて、児童サービスから成人サービスへの橋渡しをする

こと。(2)ヤングアダルトの教育・情報・文化・娯楽のニーズに応えることのできるサービスをヤングアダルト自身が求め、また受けることができるようにすること。(3)ヤングアダルトサービスがリテラシー、生涯学習、情報リテラシー、楽しみのための読書を促進できるサービスをすること。

すなわち、ヤングアダルトサービスは、読書だけにとどまらない多様なニーズに応えるサービスをティーンエイジャーに提供し、一生にわたる知的活動の素地をつくるためのサービスといえるだろう。

2. ヤングアダルトサービスの現状

10年ほど前に、ニューヨークの市立図書館²を訪れたことがある。当時42nd streetにあった児童サービスの拠点Children's Centerとは別にヤングアダルトサービスのセクションが設けられていて、ヤングアダルト

サービス専門の司書がおられ、それだけでも日本とは違っていた。その方に話を聞くと、すでに米国では、ヤングアダルト世代を見守るサービスとも成人サービスとも違うサービスを行う対象としてとらえており、思春期独特の時期に対する図書館サービスが重要であるという認識をもっていることがわかった。読み物資料の提供など日本でも通常行なっているサービスに加え、当時ですでに進路支援・宿題支援が行われ、10代の子どもたちが抱えている学習や進路の問題の解決の支援に向けたサービスを実施していた。現在は、それに加え、さまざまなイベントをおこなって、まずは図書館から離れがちな10代の関心をとらえ、その上で、そのニーズに合ったサービスを行おうとしている。例えば、米国図書館協会 (ALA) のヤングアダルト図書館サービス協会 (YALSA) は2006年から米国のプロレス団体WWEとタイアップして、一定期間に10冊以上の本を読んだ10代にブックマークコンテストを行い、その入賞者にプロレス興行“WrestleMania”の招待券を贈るといったイベントを行っている。³

英国でも、ヤングアダルトサービスについては、さまざまな取り組みがなされている。⁴ 例えば、パーミンガムの公共図書館では、数人の高校生に研究者としての訓練をし、図書館サービスのデザインや選書に専門的な知識を持って参加してもらうことで、ヤングアダルトを図書館に取り込む工夫がなされている。ダッドリーの公共図書館では、ヤングアダルトに一定の予算内で図書館の本や視聴覚資料の選択を任せることを通じて、図書館への親近感を持たせる工夫をしてい

る。これらの取り組みはいずれもティーンエイジャーを図書館利用者として育成し、彼らに充実したサービスを提供するための道筋をつけるものである。

ひるがえって、日本の現状を見ると、一部では先進的な取り組みをしているものの、多くの図書館では、資料は置いていても、ヤングアダルトにターゲットを絞ったサービスはほとんど実施されていない。これには、予算や人員が割けず、新しいサービスに取り組む余裕がないこともあるだろうが、今一度ヤングアダルトサービスの重要性や図書館サービスにおける位置づけを確認してみる必要があるだろう。

3. 今後の課題

これから、日本の公共図書館のヤングアダルトサービスはどこへ向かっていくのだろうか？

現在、中高生の読書離れや情報利用の問題が取りざたされている。ケータイ小説の流行は世間的には読書離れの一因としてとらえられることもあるが、第61回読書世論調査⁵によると書籍の読書量とケータイ小説の読書量は正比例しているという結果が出ており、小説としての評価も分かれているところである。また、学校裏サイトやネット犯罪への注目も集まっており、政府の委託によって、インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会がその検討内容の最終取りまとめ⁶を発表したばかりである。文学とどのように親しむか、溢れる情報とどのようにつきあうか、公共図書館はヤングアダルトサービスを通じて、10代が知的生活の土台を築く支援を行うことができるのではないだろうか。(会員・岩崎れい 京都ノートルダム女子大学准教授・図書館情報学)

1 IFLA. Guidelines for Library Services for Young Adults 2008.

<http://www.ifla.org/VII/s10/pubs/Profrep107.pdf>

2 New York Public Library のホームページ

<http://www.nypl.org/>

3 国立国会図書館. YALSA、プロレス団体とタイアップしてティーン向け読書推進キャンペーンを開催. カレントアウェアネスR. <http://current.ndl.go.jp/node/8721>

YALSA. WrestleMania Reading Challenge.

<http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/yalsa/teenreading/wrwc/wrwc2009.cfm>

4 Birmingham City University, Engaging Teenagers in Library Developments - Programme. 2008.

<http://www.ebase.bcu.ac.uk/events/engaging-teenagers-programme.html>

5 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 『読書世論調査2008年版：第61回読書世論調査／第53回学校読書調査』毎日新聞社, 2008.

6 インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会. 「インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会」最終取りまとめの公表. 総務省.

http://www.soumu.go.jp/s-news/2009/090116_1.html

私の出会った高校生たちと本

公共図書館の司書として働いていた時、一番縁遠かったのが高校生。私の働いていた図書館は地域の高校にブックトークに行く活動もしていたけれど、図書館の中で彼らと出会うことはほとんどなかった。

学校図書館を頼りにする高校生たち

ところが、この6年間に3か所の高校で学校図書館司書として仕事をさせてもらう機会に恵まれた。最初に産休の代替で行った高校では、本好き・図書館の常連といった生徒達がたくさんいた。その年、生徒一人当たりの年間貸出冊数は9冊を超え、最多貸出者は833冊、上位3人が500冊を超えていた。

これは若者の活字離れといわれていた時に私を驚かせた。そこの書架には、ライトノベルズと呼ばれる文庫本から、ベストセラーや各賞受賞作といったしっかりした読み物、教科の課題で出されるテーマに関連した本、たとえば源氏物語関連の資料、保健の授業で個人発表のテーマになる病気疾患、妊娠出産、障害などの資料が充実していた。そういう資料が「高校生だからこれぐらいは読まなくてはいけない。」という上から目線ではなく、小中学にもありそうな写真や図表のたくさんある資料から岩波新書まで、多様な生徒に対応できるよう置いてあった。自分の読書力にあった本があるので、生徒たちは課題が出るたびに図書館を頼りにしていたようだ。司書とも気軽に話をしにくる。そういう習慣が、趣味としての読書につながることもある。そして量だけでなく、読書の質の向上になっていく。

三年生の物理の先生が卒業までの3時間を図書館で過ごさせたいと生徒たちを連れてきてくださった。どうも見覚えのない顔が多い。図書館に足を運ぶことのない子たちが多かったようだ。最初の時間はとても居心地が悪そうに過ごしていた。「どんな本読みたい？」と聞いても、どう答えていいかわからないといった様子だった。ところが、3時間目になると勝手に書架をうろうろし、本を探し出し、読み始めている。「この子たち、卒業してから何か調べたい事、読みたい物が出てきたら図書館を利用するようになるかもしれないな」と感じた。

生徒が来ないなら

2校目は生徒の利用がほとんどない。そうなると学校も図書館に何も期待しなくなる。生徒が来ないならと、

「学級文庫してみませんか」と何人かの先生に提案してみた。「そんな段取りしてくれはるんですか」と話に乗ってきてくださった。小論文によく出る作家の蔵書作品リストを担任に渡すと、その先生や生徒が図書館に入りするようになってくれた。

ある時、ネットの検索結果だけで仕上げたレポートを「見てもらえませんか」と持ってきた。薄っぺらい！「この本のこの項だけ読んでみ。」と1冊渡したらレポートが5ページ増えていた。受験の終わった生徒が、「なんか勉強に関係ない、たのしい本ない？」と来てくれた。

本と人がつながる場所として

3校目は府立の定時制に2か月。司書の先生の病休代理だった。2か月という短い期間では何もできないと思っていたが、定時制の生徒で小中学時代学校に行きにくかった子の中には、勉強はできないけれど家で本を読んでいたという子もいる。ある時カウンターの上に「カラシニコフ」という本が置いてあった。読み応えのある本である。それに興味を示した生徒がいた。少年兵について彼らと話すことができた。少年兵という言葉を知らない生徒には「世界の子どもたち」という図表がたくさんっている本を見せた。「世界にはいろんな境遇の子がいるんやな」と言っていた。家には本という物がないという生徒は「ミッケ」で遊ぶことから始めた。気がついたら6、7人の生徒が周りを囲んでいた。

勤務期間中、司書部会にも参加させてもらった。色々な資料の情報交換、図書館での企画行事、ディスプレイの紹介、学校図書館の問題点についての話し合い等がなされる。少ない資料費を有効に使い、生徒たちに提示したいという司書の先生たちの思いを感じた。

高校生ともなればこれくらいの本は読んでほしい、これくらいは知っていてほしいという気持ちはあるが、これまでの読書経験や環境によって個人差が大きい。けれど本に興味がないわけではない。多種多様な資料を彼らの周りにおいてやり、人と本をつなげることのできる人間が傍にいれば、本の中で遊ぶ楽しさを知り、言葉も増え、知的欲求も増していく、と思う。

(会員・城野裕紀子)

右京中央図書館の取り組み

高校生の意見を取り入れたティーンズコーナーに

京都市図書館で初のティーンズコーナーがある右京中央図書館では、中高生世代の利用を増やそうと、昨秋から新たな取り組みが始まりました。けやきでは早速右京中央図書館を訪ね、林川明子課長補佐にお話を伺いました。

(2009年2月9日 窪田・永井・島崎)

7人の高校生

新たな取り組みとは、本の紹介や選書などで高校生の意見を聞き同世代の利用を促進する活動です。館内に掲示をしたりカウンターに立ち寄った高校生に声をかけたりして募集、現在右京区内の7人の高校生が登録をしています。

館ではすでに中高生の利用者からおすすめの本の情報を集めるため、用紙に書いて箱に入れてもらうというところを行っていますが、メンバーの高校生から「箱を置いておくだけでなく、紙を直接渡した方が書いてもらえる」と、10代の気持ちに沿った意見が出て、それを早速実行しているとのこと。

活動のこれから

活動はまだ始まったばかりですが、将来的にはティーンズコーナーの展示のアイデア（作家特集やテーマ別）や飾り付けを高校生と司書が協力してやっていければと考えているそうです。私たちが訪ねた折、ティーンズコーナーでは「これだけはおさえておきたい和風ファンタジー！」という展示がありました。萩原規子、斉藤洋、たつみや章、伊藤遊、柴田勝茂の作品が挙げられて目をひきます。一方、図書館の入口には司書による「かくれた名作」の紹介の展示（一般向き）があり、これがなかなか好評です。展示するとすぐにその本が借り出され、同時に展示している関連本も借り手が多いとか。自分の勤める本に利用者からすぐ反応があるので、司書さんの励みにもなっているそうです。林川さんは「このようなことが将来ティーンズ向けにできたら」と話されて

いました。けやきからは10代向けの読書会活動ができたらいいですね、読書会という堅苦しいけれど、本を通じて10代の人たちが集い憩う場所を図書館が提供するというような活動を、と提案しました。

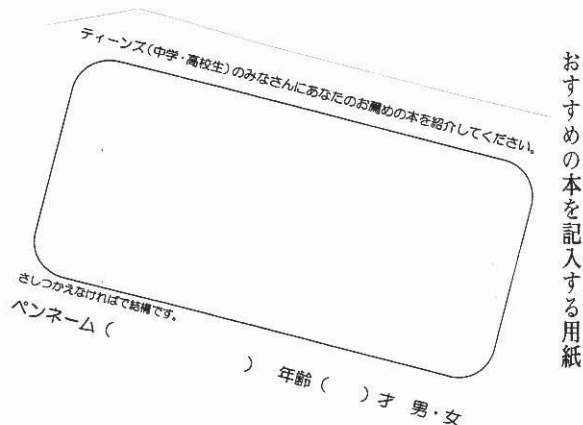
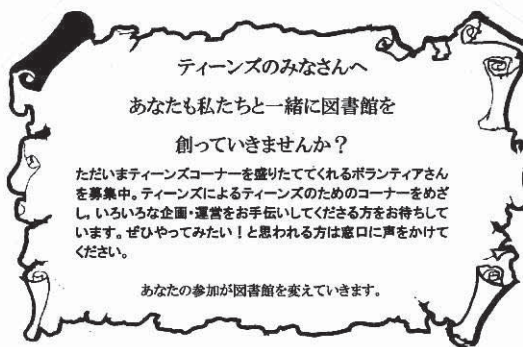
ティーンズコーナーでは

ティーンズ向けの本といっても十代をめぐって作られたものばかりではなく、児童書や一般書と重なる本もあります。ここではそのような本は複本で購入し、どちらの書架にも入っているので安心です。選書のために高校生メンバーや利用者、「チャレンジ体験」で図書館に来た中学2年生、若い司書さんなど若い人の意見もよく聞いているそうです。また10代向けの雑誌のバックナンバーがティーンズコーナーに置かれています（新刊は雑誌コーナー）。ファッションやアニメ、創作読み物など、よく読まれた跡が見られました。ライトノベルズも貸し出しは多数にのびります。

そのせいかティーンズコーナーの辺りや、すぐそばのハイカウンターにも若い人が多いとのこと。一所懸命調べものをする姿がよく見られるそうです。CD、DVDも若い人の利用が多いそうです。

高校生の力を利用促進につなげようという右京中央図書館の取り組み。忙しい10代の子たちとの時間の調整、参加者を増やすための日常の声かけなど、ご苦労もあるようですが、交通至便な立地と右京中央図書館ならではの施設を生かして、中高生世代をぐっと引き寄せる魅力ある図書館になればと思います。そのために若い人の力が生きる活動が実ることを期待しています。（島崎）

ティーンズコーナーに置かれた活動参加を呼びかけるちらし



おすすめの本を記入する用紙

大阪府立中央図書館の取り組み 積極的に図書館から働きかける

大阪府立中央図書館へ「けやき」の会員6名で見学に行ってきました。ヤングアダルトといわれる中学高校生世代の利用に関して、職員の方に案内・説明をして頂きました。

(2009年2月6日 増井、井上、奥坂、北園、田中、永井)

図書館でダンスカーニバル？

大阪府立中央図書館へは「出町柳」から京阪電車に乗り、「天満橋」で大阪市営地下鉄谷町線に乗り換え、ひと駅目「谷町四丁目」で中央線に乗り継いで、相互乗り入れをしている近鉄「荒本」で降ります。2回の乗り換えどれもがスムーズで、約1時間20分で到着できます。地下2階・地上4階、延べ面積3万770平方メートル、蔵書数175万冊の図書館です。

1階玄関からエントランスホールに入ってまず目についたのが、「若者ダンスカーニバル」の案内でした。これは館内にある380席の「ライティ・ホール」において図書館主催で開催されるダンスを競う行事で、第3回目になる今年は、出演30チーム、1チームのメンバーは2〜41人という規模になります。この行事のきっかけは、大きなガラス張りの玄関を鏡に見立てて外で踊る多くの若者を、図書館の中へ呼び入れようということでした。そのため、審査の間に図書館サービスの紹介・説明を行うとのことでした。

YA! YAIYA!

エントランスホールから左に折れてすぐの所には「YA!YAIYA!〜10代のあなたへのおすすめ本〜」のコーナーがあり、そこには小説などの文学作品や実務的な本など、様々なジャンルの本が表紙の見える形で並べられています。進路選択に悩む若者のためには、各種職業の説明やその職に就くための具体的指針が分かりやすく書かれている『知りたい！なりたい！職業ガイド』（全47巻）からの11巻も置かれていました（残りの巻は「こども資料室」奥のYAコーナーに置かれています）。

このコーナーから奥は「こども資料室」となっていて、絵本、子どもの読み物へと書棚の高さに比例して進んでいきます。その一角には、子ども向け大活字本・点字本もあります。さらに、児童図書関係の雑誌のバックナンバーも揃えられているなど、総合的に子どもや若者と関わりのあるコーナーとなっています。また、隣接する「小説読物室」の「こども資料室」に最も近い棚には、ヤングアダルト向けの文庫本が並んでいます。



YA! YAIYA!
へのおすすめ本のコーナー

ヤングアダルトの読書離れが問題として取り上げられることが多いこの頃です。同図書館ではそれを何とかしようと職員が本のジャンルや成人・子どもといった担当分野の枠を超えて「YA! YAIYA!利用活性化チーム」を立ち上げ、様々な工夫を凝らしています。これらの例だけではなく、おすすめ本を紹介するリーフレット「ヤング★アダルトYA! YAIYA!」を配布したり、携帯電話からもアクセスできる「YA!YAIYA!べんりやん図書館」(<http://www.library.pref.osaka.jp/central/benriyan/index.html>)というホームページも開設しています。

今回の見学を通して、ただ若者が図書館に足を運ぶのを待つだけでなく、積極的に図書館から働きかけると強く感じました。
(増井)



YAサービス—図書館に願うこと

10代が本と図書館の魅力を知るために

今回2つの図書館を見学し、大多数の中学生や高校生は「本」や「図書館」と疎遠であること、そして彼らがその魅力を知り「本」や「図書館」に辿り着くには図書館員の彼らへの積極的なアプローチが非常に重要であることを、改めて強く思った。京都市図書館でも、右京中央図書館を中心に、ぜひ全館で積極的なYAサービスを展開して欲しい。

ヤングアダルト向けのホームページで発信を

まずは彼らを「図書館」に呼び込まなくてはならない。実際、彼らは日頃「本」や特に「図書館」についてはほとんど関心がないようだ。例えば、右京中央図書館のティーンズコーナーの本やCD・DVDなどが、近くの地域館でも借り出し返却できることを、どれだけの中高生が知っているだろう。「ここ数年書店の売り上げランキングの常に上位を占めているケータイ小説やライトノベルも、ちゃんと図書館の棚に並んでいるよ」といったことから、情報発信するべきだ。数日前の新聞にも、「文部科学省の全国調査の結果、中高生の『ケータイ（携帯電話）依存』が非常に強いことがわかった」と、大きく報道されていた。そのぶん本を読む時間が無くなっているのだろうが、大阪府立中央図書館のヤングアダルト向けホームページのようにケータイからもアクセスできるのなら、図書館との距離もずいぶん縮まるのではないか。ぜひ京都市図書館のホームページにもヤングアダルト向けのページを作って欲しい。狭い地域館でティーンズコーナー（YAコーナー）を設けることは困難でも、中央館が中心になって情報発信すれば、あとは各館でその情報と自館の所蔵資料を繋ぐ工夫を凝らせば、

中高生にももっと身近な図書館になるだろう。

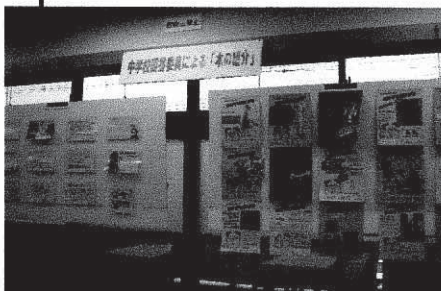
中学高校への働きかけも

さらに、ぜひ図書館から積極的に中学校や高校にも働きかけて欲しい。学校への団体貸し出しは、学校図書館・学校教育を支援するとともに、生徒たちにも地域の図書館に行けば学習のための資料があるというアピールになる。京都市図書館の小中学校への団体貸し出し制度は昨年改善され、小学校の利用が非常に伸びたそうだ。この制度は学校に司書がいれば更に活かされるのだが、中学校でも利用が広がって欲しい。また、まだ公共図書館を利用していない生徒へのアプローチも学校と連携してなら比較的やりやすい。夏休み中は宿題の資料や課題図書のリストを手にした小中学生が図書館にたくさん詰めかけるが、それが恒常的な利用となるには、地域のヤングアダルトのニーズを探ったり図書館の魅力をもっとアピールしなければならない。左京図書館では左京区南部の小学校の教室掲示用に年4回小学生向けの「左京図書館だより」が発行されているが、このようなものを中学校へもぜひ届けて欲しい。

司書さんの腕の見せどころ

次に「本」への誘いであるが、そこは経験豊富な司書さんたちの腕の見せどころである。持ち運びに便利な文庫本で、取っ付きやすい和製のファンタジーやミステリ・恋愛小説が、今の中高生には人気のようだ。京都市図書館でも、映画やテレビドラマ化された途端、原作本にリクエストが殺到すると聞く。左京図書館の「中学校図書委員による「本の紹介」ポスター展示」で紹介された本にも、そのような本やアニメのノベライズ本があっ

左京図書館 中学校図書委員による「本の紹介」ポスター展示



左京図書館では1月24日から2月9日まで地域の中学校で図書委員が作成した本の紹介のポスターが展示されました。これは校内掲示用に作成されたものですが、図書館にも展示して広く来館者に見てもらいたいと、左京図書館が左京区の市立中学校長会に依頼をしたものです。昨年に引き続き近衛中学校、修学院中学校の協力が得られました。

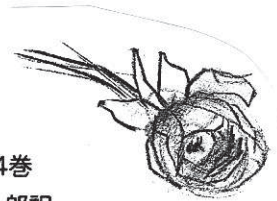
力作のポスターからは中学生の瑞々しい感性とパワーが感じとれ、その本を読んでみたくなりました。地域の中学生と図書館を結ぶ活動として今後も続いてほしいものです。

た。ゲームやマンガ・テレビにしか目が行かない中高生たちに奥深い読書の喜びを知ってもらうには、メディアミックスの手法も駆使して、日頃馴染んでいる媒体や「中身も本体も軽い?!本」とつかかりにすることも必要だ。そのようなジャンルへも視野を広げたヤングアダルト向けのブックリストも『12歳からの読書案内』(05年)『12歳からの読書案内 海外作品』(06年、いずれも金原瑞人監修、すばる舎)、『中学生はこれを読め!』(北海道書店商業組合編、北海道新聞社)など出版されているので、所蔵するだけでなくYAサービスにも活用して欲しい。芦屋市立図書館ホームページの「こどものページ」には『中学生はこれを読め!』の500冊のリストが図書館の分類を付記して掲載されているが、このような方法も一案だろ

う。そして、彼らがとつかかりに手にした本だけではもの足りなくなった時、そのチャンスを逃さず「こんな本もあるよ」とぜひ司書さんが導いて欲しい。

このような図書館のヤングアダルトサービスは、司書さんの対象利用者への継続的な情報収集及びアプローチと蔵書資料への深い造詣なくしては、行なうことはできない。今各地で図書館の民営化が進み、今回訪れた大阪府立図書館にもそのような動きがあると聞く。委託事業者がころころ変わり、短期間の派遣採用の司書さんが中心の図書館では、このようなサービスを十全に実施するのはとても無理な断である。「しわ寄せがくるのは声の小さい子どもや高齢者」という事態は、図書館においても決して起きて欲しくない。(永井)

中学高校生世代にすすめる本



スウィート・メモリーズ

ナタリー・キンシー=ワーノック作 金原瑞人訳
ささめやゆき画 金の星社 1999年

アメリカバーモント州の田舎に住む引っ込み思案の女の子ジェルビーは、楽しみにしていた誕生日パーティーがおばあちゃんの看護のためにドタキャンになってしまい不機嫌極まりない。不満な気持ちを抱えながらおばあちゃんと過ごす日々でジェルビーが得た物は…。

こう書くと陳腐でありふれてしまうのだが、この大きな活字の小さな本には、きらきら輝く宝石のような言葉が溢れている。

おばあちゃんからもらった古ぼけたカメラは、ジェルビーの知らなかった家族の歴史をたくさん写していた。「ほんとうに楽しい人生だったわ。一秒だって変えたいとは思わない。」そうつぶやくおばあちゃんにも果たせなかった夢があった。

光り輝く思い出と人を愛おしく思う気持ちは、自分の未来を切り開く力を生み出していく。中高生にお勧めしたいのはもちろんのこと、シニアの方にも是非読んでいただきたい一冊。一步踏み出す勇気に年齢は関係ないのだ。(会員・余田由香利)



シーラスシリーズ 1~14巻

セシル・ボドガー作 橋要一郎訳
評論社 1981年~2007年

サーカスで生まれた13歳のシーラスは、サーベルを飲むことを強いられてひとりで飛び出します。小舟で川を下り岸辺に住む馬商人の所に流れ着きます。彼を見つけ、馬丁として安価で雇いたいと目論む商人は賭けを提案。賭けに勝って黒馬を正当に手に入れたつもりでしたが、当てが外れた商人は承知しません。必死の抵抗の末、笛の力を借りて逃亡に成功します。しかも辿り着いた村は盗賊の村で、大人達の罠にはまり黒馬を奪われたあげく、舟で流されてしまいます。

大人から見れば「小賢しくて大人を出し抜く子ども」のシーラス。しかし彼が受けた大人からの仕打ちはそれ以上のもの。精一杯自分を生きたいと願っているに過ぎません。足の不自由な少年ビン・ゴーチックと心が通じ合い、カワウソ漁師の助けを借りて黒馬を取り返して友と旅立ちます。

第1巻めでは共に旅する親友と出会い、第2巻では以後重要な脇役であるウマガラスが登場し、第3巻では「学ぶ喜び」を知ります。最終の第14巻では、別れた母と再会して平穏な日常が訪れるかに思われますが、親となったシーラスが抱える問題は依然として山積みです。

第1巻『シーラスと黒い馬』が書かれたのは1967年です。40年も前に書かれたのですが、今身近で起こって

ることに通じるものがあります。困難なことに遭遇した時、彼がとった態度に励まされることがあるのではないのでしょうか。

訳者があとがきで「古めかしい表現、難しい表現」を敢えて残したと述べています。その言葉が「だれか」と語るきっかけとなるように。その「だれか」の力量こそ今問われていると思います。(会員・北園裕子)

ヤングアダルト小説3冊ご紹介

最初にご紹介するのは、リチャード・ベック作「**ミシシッピがくれたもの**」(斉藤倫子訳 東京創元社 2006年)です。タイトルが示すとおり、この物語ではミシシッピ川が象徴的に使われています。ティリー一家の生活を一変させた2人の少女は南部ルイジアナから川を上ってやってきました。対岸の町とは南北戦争によって敵対してしまいました。一方、少女たちとの間には川のような深くて大きな隔たりがあり、それでも彼女たちは差別と戦争という歴史の流れに翻弄されながらも自分を見失うことなく生き抜きました。最後の場面では思いがけない感動が用意されています。

川を舞台にしたもう一つの物語はJ・L・コンリー作「**ほとばしる夏**」(尾崎愛子訳 福音館書店 2008年)です。両親の離婚の危機に不安を抱いたまま、姉弟は夏休みを溪谷の丸木小屋で過ごすことに。森で出合った森林管理官の老人は偏屈で傲慢。敵視し合っていた両者の間にはいつしか友情と信頼が育まれます。やがて老人の命を助けるため、二人は激流に挑むのです。子どもにはどうすることも出来ない現実をどう乗り越えていくのか。人との出会い、自然との出会いの中で違う世界が見えてくる。自然の描写、特に川の描写が美しい。

3冊目は、キンバリー・ウィリス・ホルト作「**ルイジアナの青い空**」(河野万里子訳 白水社 2007年)です。恥ずかしい存在の両親、お洒落な女の子たちとの微妙な関係、親友だったはずの男の子は突然異性になってしまうし。抱えきれない思いを受け止めてくれるおばあちゃんがいるからこそタイガーは毎日をやり過ごすことが出来たのに…人は生まれてくる場所を選ぶことは出来ません。自分を取り巻く環境をのろい、迷い、あがき、そして受け入れることによってその大切さに気づくのです。ものごとは一面的ではないことを理解して少女は大人になっていくのです。清々しい読後感を味わえる一級ものの作品です。(会員・山本ゆみ)

夜と霧 新版

ヴィクトール・E・フランクル著 池田香代子訳
みすず書房 2002年

本書は、ユダヤ人精神科医がナチスドイツの強制収容所での体験をつづったものである。ナチスによるユダヤ人迫害については映画などでも多く表現されているが、本書は収容所の状況を描いて戦争の悲惨さを訴えるというよりも、極限状況の中で人間が自分と他者の尊厳をいかにして守り、生き抜く事が出来るのか、人間とはどういうものであるのかについて教えてくれる。

些細な事で他人を、自分をも傷つけることが日常と化してしまっている現代社会を生きる若者たちに、一度は手にとって見てほしい一冊である。

(左京図書館・櫻井智子)

科学的とはどういうことか

いたずら博士の科学教室

板倉聖宣著 仮説社 1977年

「水の沸騰点は何度？」と聞かれたら、100度と答えます。実際に計った覚えはありませんが、学校でそう習いましたから。でも、違うらしいのです。97度ぐらいで止まってしまうのだそうです。

「虫めがねで月の光を集める」とどうなるか？月は太陽と同じ結果になるのでしょうか。

この本は、二部構成です。前述したような興味深い問題が、前半に、複数用意されています。答えを導き出す解説を読むだけでも面白いのですが、身の回りにあるものを使った実験で、結果を体験できるのは嬉しいものです。科学が身近に感じられます。

後半は「超能力と科学」の話です。30年以上前、評判になった「スプーン曲げ少年」の話題を中心に「科学的に考えるとはどういうことか」を考えていきます。

相変わらず、超常現象などのテレビ番組が作られ流行している現代。騙すつもりはなくても、ウソか真実かわからない番組を流すだけで、マスコミには、責任があるという記述は考えさせられます。受け手も、すべて信じるのではなく疑いをもつことが大事なようです。

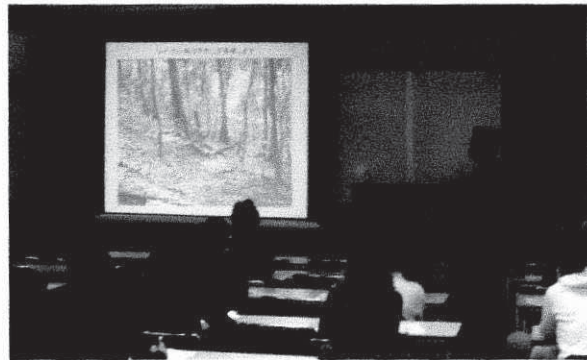
先の見通しが立たず、未来に希望を持ちにくい今こそ、合理的に考える力が必要だと、実感できます。年齢に関係なく、自分の頭を使う事の大切さが伝わる本です。(京都科学読み物研究会・尾上恵津子)

菌類から見える自然環境

きのこ研究家 小寺祐三氏のおはなしとスライド

毎恒例のけやき・左京図書館共催の講演会が左京図書館階上の会議室で開催された。今年は「菌類から見える自然環境～京都市内とその近くで見ることができるキノコ」と題して、岩倉在住のきのこ研究家小寺祐三氏にきのこの不思議な世界とその魅力を紹介頂いた。身近な京都御苑や下鴨神社、木野辺りに生えるきのこの写真が次々とスクリーンに映し出され、きのこの生態やきのこに連なる生態系がよくわかるお話に参加者は聞き入っていた。

会場には小寺氏所蔵のきのこの標本がたくさん並び、来場者は冬虫夏草などめずらしいきのこに興味津々の様子だった。また左京図書館所蔵のきのこについての本や、きのこが出てくるお話や絵本など関連本が、1月10日～19日左京図書館内（講演会当日は会場内）で展示。この展示本



森やきのこの写真を見ながらお話に聞き入る参加者

のリストも図書館によって作成、配布された。

参加者へのアンケートから

「小寺先生のキノコに対する熱意が伝わってくるお話でした。キノコはすごいと思いました。」

「解りやすく説明していただき、とても楽しく聞くことが出来ました。第2弾第3弾を希望します」

「御苑のキノコを楽しんでいるので、愉しみに参加しました。なお楽しみが増えました。」

「野をを歩く時、花や木には目がいきますがなかなかきのこまでは、これから注意して歩きたい。」



講演会場で展示されたきのこの本



冬虫夏草の標本

けやきの本棚 30

中高生世代へ
おすすめの本

ケープ・ベアの一族

上・下

エイラ地上の旅人1・2

ジン・M・アウル著

大久保寛訳 集英社

04年

ネアンデルタール人の幼

女エイラは大地震で自分の

一族を失いさまよううちに

クロマニオン人の一族に拾

われ育てられる。文化も身

体構造も違う両者は葛藤と

受容を繰り返す。一方は順

応もう一方は最終的に拒絶

する。現代人にきわめて近

い人類の営みに触れること

は、複雑な社会で便利な文

明生活を甘受する私の中の

生物的な遺伝子を奮えさせ

る。(会員・大道)

骨盤にきく

片山洋次郎著

文藝春秋 04年

ふだんは考えたこともな

い骨盤、その骨盤の秘密が

解き明かされます。例えば

心身が最高の状態になるよ

うに自動的に動く、呼吸は骨盤の動きの最小単位、また眠りの深さは骨盤の動きの振幅の大きさと直結する等々、目からウロコのお役立ちのお話がギッシリと詰まった一冊です。

(左京図書館 H・Y)

種をまく人

ポール・フライシュマン著

片岡しのぶ訳

あすなる書房 98年

ヴェトナム人の少女キム

が、ゴミ溜めの空き地にマ

メをまいた。ルーマニア人

の老女アナが水やりを世話

し、インディオの長老だつ

た男が土を耕し始め…。北

東アメリカの貧民街で、

各々の孤独を抱えて生活す

る人々が、畑を通じてつな

がっていく。複数の主人公

が語る畑の姿に、現代の

ユートピアを見るような気

持ちになる。

(図書館員・まいける・一

乗寺)



けやきの活動 08年10月末～09年2月

- | | |
|--|---|
| 10/27 ニュースレターNo.29印刷発送 | 2/7 大阪府立中央図書館見学取材 |
| 11/～ おたのしみ会に向けて巻き絵、
ペーパーアートなど製作
講演会の準備 | 2/10 右京中央図書館見学取材
・11/29.1/24.2/28 (第4土曜)
図書館おたのしみ会に協力 |
| 11/15 第8回おとなのための語りを楽しむ会 | ・11/22.12/12.1/23.2/27. |
| 12/4.12 冬のスペシャルお楽しみ会練習 | 絵本学習会 |
| 12/8 講演会の案内・チラシ印刷発送 | ・10/30. 11/6.13.20.27. 12/4.11.18.25. |
| 12/13 冬のスペシャルお楽しみ会 | 1/8.15.22.29.2/5.12.19.26 |
| 1/上旬～ ニュースレターNo.30編集 | (毎週木曜10:30-12:00) |
| 1/17 小寺祐三氏講演会 | |

絵本コーナーで「あかちゃん
絵本サポーター」活動
・11/10.12/8.1/9.2/2.3/2 (.第1月曜を基本)
事務局会議・図書館とのミーティング

けやき情報板

第27回 映画上映会

日時：3/6(金) 午後1時30分～

世界・美の旅シリーズ

「ムンク・ガウディ/ジュジョール」

画家の主要作品を紹介。出身地や活躍した
地など関連映像も多数あり。

絵本学習会

日時：3/13(金) 午前10時より

テーマ：西巻茅子の本 第3回

新年度のテーマと日程は、図書館掲示のポ
スターまたは事務局まで

子ども読書の日記とおたのしみ会

・日時：4月19日(日)午後2時より

おたのしみ会

大型紙芝居「スーホの白い馬」

馬頭琴の生演奏付き 他

(第四錦林小学校教育ボランティア・

修学院保育所)

・日時：4月23日(木)午前10時30分より

あかちゃんのためのおたのしみ会

(養正乳児保育所・けやき)

・日時：4月25日(土)午後2時より

小学生によるおたのしみ会

(養正小学校図書委員)

*上記の催しの会場は、いずれも

左京合同福祉センター3階会議室

(左京図書館の上階) です

図書館友の会 けやきの仲間になりませんか

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいき
とあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、
活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、
左京図書館を支え、育てていきたいのです。

こんな活動をしています 一緒にしましょう

子どもたちに絵本を読んだり、人形劇やおはなしも。

赤ちゃんの本選びのお手伝いや絵本についての相談も。

映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、
「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。

図書館の現状を調べたり、提案も。 ニュースレター「けやき」を発行。

ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ右下掲載の事務局または下記の振替
(振込)口座にお申し込みください。

郵便振替の場合 口座番号 00920-8-156914番

口座名称 図書館友の会 けやき

他銀行からの振込の場合 店名 ○九九店(ゼロキウキウ店)

当座 口座番号 0156914 トショカントモノカイ ケヤキ

年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

あはさとのそ週唯▽を込しがら場にとに若▽
つ高れ直嵐い末一老願んて直い所もしてい不
て齡て結がそ、の老いだも接たて問てき人景
欲者いし吹と義楽介ま活図地いあ題図なが気し
しやるなきで母し護す動書域とる解書い希な
いYがい荒かのみ真。が館に思事決館も望話
。A、文れけ家はっ盛に貢いをにがのがば
の今化るて族図最ん若献ま広も憩かもか
強こ活昨いに書中にいですく貢い。てり
いそ動今く託館のな人き。知献にそのの
(味図は、。し通義(るをる中つてももの世昨
り方書軽お不てい父(きこ取場高てき起一の今
)で館視金況い。の)とりと生もる業助中。

編集後記

◇けやき 第30号 2009年3月2日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん
カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方

TEL/FAX 075-721-2625